

寛文九  
酉年五月

松  
本  
記

庄屋  
河辺  
甚太郎

|      |
|------|
| 寛文9年 |
|      |
| 河辺家  |

34

|          |    |
|----------|----|
| 函        |    |
| 号        | 17 |
| 時 代      |    |
| 内 容      |    |
| 所有者      |    |
| 東筑摩郡誌編纂会 |    |

# 松本記

寛文九酉年五月

店屋

河邊甚右衛門

市町割 町号之事

天正十年辛酉小笠原貞慶公當山城に  
再入給へ候に城を度り大に町割を  
成し置たる所は十三箇年以城下町  
地割に依り居りし也めりた川の南で  
左内宮村に地は町割を居り七所に  
町割ありしとす又山城東に松平の地  
切原なる地五所に町割ありしとす  
十三所に町割ありしとす是迄に  
居りし町は地割の形所と内何所の  
地は成りし所より引移りし所は  
ありて諸人思ひに家を移る也大に聚る



[illegible]

親て寛文二年とも右へ如く、末中町西裏  
 小池所、富井所、富坂所、安永寺、少所  
 共、御仁事の町とも、此家へ虎出建ふ人、虎  
 町、東へより、程半人、便番まゝ、二年、以  
 家へ所、出建ふ人、町へ一、親、町、引、五、七、歳、に  
 程、お見へ、不、追、く、町、東、殖、へ、増、へ、繁、昌、目、て  
 古、加、加、

本町中所在所と所号の土地柄る有り  
 体と市と西所と町号あり

何樂所

此土地ハ往昔西口といふところ云西口といふ



西在しゆしと作し市あり天正十一年  
 貞慶公涉父長時公の以善徳の爲木  
 込山の正勝寺に建立せし爲りけ地と先  
 植村程の爲徳景<sub>後北氏</sub>といふ有け地以新  
 予多々西口の内て一所は方祖の爲地を  
 しを事ほく地不田交れしあり事以地と古  
 より作樂と神宮田并也初今も西口所  
 初傳説は是より世人作樂所といふ

博方所

竹所ハ古く、眞馬を集め、新馬を配する也。  
 古より、相馬方、以博骨流計所、佐倉  
 あり。又馬市も、その佐倉にて、世人

博勞町上唱

鈕圓所

け所ハ孝文長子ハ幸秀政公再領國より  
以入部領とて末の地贈るを主と也主  
領國より百連れを以侍荒田を分  
荒田人ハ荒田を爲る也又以上種を慕ひ  
諸職人其外種くの人等附きて荒田を  
以荒田を爲る也とて世人領國と唱ふ

小池所

世所おもひぬ国より以入穀順を六四地昭危  
多うと也せう南ハ皆以世公人虎

竹所ハ古く、眞馬を集め、新馬を配する也。  
 古より、相馬方、以博骨流計所、佐倉  
 あり。又馬市も、その佐倉にて、世人



一 佐居と申其内、小池甚と申と云以侍  
と也け凡、年々名法と申て連人  
と申よりて世人、小池所と唱へ

### 一 宮村所

一 此土地は佐居より、庄内中村より也  
曆意と申、頃より、彦神、傍方大明神  
初建より也、まより、後世、庄内中村と  
唱へ也、天正十三年、宮村と地、田所割を  
成り、此頃より右、古名を其後用ひ  
一 宮村所と唱へ

### 和泉所

一 此土地は佐居より、安房村地内より、小笠  
原家より、以、舊名、合科和泉といふ人  
より、仁科大所より、佐居より、慶長十八年  
以、入部より、後松村、佐居より、佐居より、別  
所地内を終り、佐居すといふ、世人、和  
泉所と唱へ

### 安房所

一 此土地は、舊名、佐居の地名、安房、野原あり  
後世、安房、野原の中より、二字を省きて  
首尾、二字を用ひ、安房村と号け、年  
間、より、安房、ありといふ、天正十三年、  
田所割を成り、頃より、右、古名を其後



用い安事所と唱ふ

横田所

け所ハ山所刻より後一統以上藤が長  
る山よりなり山を公人尻を以て公人  
後安事山を公人所と唱ふ引れとて後所  
拂居る所あるは横田村と有数人  
引林住居すといふ有横田所と唱ふ長き  
所東居れ多有後部所と有川上所  
下所と唱ふ

山家小路

け所ハ土地柄を山家在くよりの通路の  
町あり有山家小路と唱ふ即所と少  
所痛接くあり世ハ山家小路の慣ふ

富坂所

け所ハ横田様代ハ河原と傳へ以て長を  
以て公人尻を以て公人尻と後  
水野様ハ代ハ山家通富坂と有  
多の及又世を以て公人尻と有  
富坂所と唱ふ

小川所

け所ハ水野様代ハ河原と傳へ以て長を  
小川小生更今以て公人尻と有山所

過

寛文九年  
九月

宮村所

河邊氏



